

平成 22 年 5 月 14 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2009

課題番号：19592451

研究課題名（和文）

認定看護師教育におけるポートフォリオを導入した教育支援プログラムの開発

研究課題名（英文）

Improving PCCN curriculum by introducing a Portfolio program

研究代表者

星野純子（HOSHINO JUNKO）

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・講師

研究者番号：00320672

研究成果の概要（和文）：緩和ケア認定看護師教育課程にポートフォリオを導入した。ねらいは入学時に自分で目的を設定し、自身で学習計画を立案実施できること、自己の成長が可視化でき、教育課程修了時には成長を自己評価できることである。学習プログラムの内容は、面接 4 回、研修生同士のピア評価、発表会を計画的に行った。その結果、ポートフォリオの活用は緩和ケア認定看護師に必要な対人関係能力、自己学習能力の向上に役立つことが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：We have introduced individual portfolios in PCCN (certified nurse in palliative care) curriculum. The purpose for this endeavor was for students to be able to conduct self evaluation on their own achievements upon completion of the curriculum. This was accomplished through students setting up their own objectives on admission and establishing and implementing a learning plan, and therefore being able to monitor own progress. The curriculum includes four regularly held personal interviews (with the instructor), timely peer evaluation, and student presentations on their own progress. The results indicated that introduction of a personal portfolio and its active implementation proved to be effective and contributed to developing interpersonal relationship skills that were important for PCCN, and also in improving the students' learning ability.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
2009 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：認定看護師教育、ポートフォリオ、緩和ケア、学習支援プログラム

1. 研究開始当初の背景

(1) 認定看護師教育課程の目指すものは、ある特定の専門的知識・技術の習得をするだけの確定的で偏重した学習構造ではなく、学習者自身が主体的に教育に参加でき、個人の課題を自らの目標に変換しながら自己教育力を高められるように支援することである。

さらに職場に復帰後様々な課題に対して

も自ら自己を見つめ、社会・組織のために自分は何ができるかを常に問い続ける姿勢を習得することにある。

ポートフォリオとは、学習者自身が主体的な意思による学びと自己成長のプロセスに価値を見出すための新しい教育方法¹⁾である。認定看護師教育課程に教育介入の媒介手段としてポートフォリオを導入することによ

り、学習者主体の自己評価力を高めるダイナミックで体系的な教育に寄与することが本研究の学術的な特徴である。認定看護師教育における教育支援プログラムの開発は、今後の看護専門教育の方向性が明らかとなり、さらに看護専門職者としてのキャリア成長に寄与することから、その意義が非常に高い。(2) ポートフォリオを用いた教育研究は、欧米では歴史があるが、わが国ではようやく近年、小・中学校で盛んに行われ、学生の主体性やチームワークを推進する力の獲得に効果のあることが証明されている。しかし医療保健分野では、ポートフォリオ教育は導入されたばかりで、その効果を示した研究は少ない。また看護専門教育におけるポートフォリオ教育効果を報告したものはない。当該研究では、4年前より認定看護師教育の評価に関する研究に着手しており、本研究により、教育介入プログラムの開発を検証できれば、看護専門教育におけるその有効性を示せると考えられる。

(3) 緩和ケア認定看護師には End-of-Life Care および緩和ケアのエキスパートとしての役割が求められている。患者を全人的に理解するためには、専門的知識や技術の習得のみならず、看護師が自分自身を理解することが重要である。学習者自身が主体的な意思による学びと自己成長のプロセスに価値を見出すポートフォリオを活用することは看護師自身の自己理解に役立つと考えられる。それは緩和ケア認定看護師に求められている対人関係に必要な基本的な能力である。

2. 研究の目的

本研究は、緩和ケア認定看護師教育におけるポートフォリオ導入による教育支援プログラムの実践開発をすることを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 研究方法

<2007 年度>

2005 年度および 2006 年度認定看護師教育課程ホスピスケアコースの修了生 36 名のデータ分析をもとにポートフォリオ導入による教育の効果を概念化する。

① アンケート調査

対象者：2005 年度および 2006 年度認定看護師教育課程（緩和ケアコース）の修了生 36 名

調査内容：教育課程の中で得られた自己教育力と修了後の自己教育力の変化を比較・検討する。

② 面接調査

対象者：県内および近県の緩和ケア認定看護師のうち、同意を得られた者

面接内容：修了生が感じているポートフォリオの効果について、半構成的にインタビュー

を実施する。

<2008 年度>

① 教育支援プログラムの内容精選と教育方法の構造化

・ 文献検討

・ 2007 年度受講生（12 名）の修了時のプログラムの効果に関する面接データの質的分析

・ 教育支援プログラムの内容精選

2007 年度の結果および文献検討をふまえ、教育支援プログラムの内容を精選し、2008 年度受講生向けのポートフォリオガイドを作成する。

② 教育支援プログラムの効果をもたらす要因の検討

・ 2007 年度受講生（20 名）を対象に、教育支援プログラムの効果をもたらす要因分析について質的手法にて実施する（入学時および修了時に、教育支援プログラムの効果をもたらす要因についてインタビューする。）

<2009 年度>

① 教育支援プログラムの有効性検証のための調査（アンケート調査）

対象：認定看護師教育課程修了生で緩和ケア認定看護師有資格者 約 65 名

内容：教育課程で得られた能力と、現在の認定看護師に求められる能力の変化から、教育支援プログラムとの関係性について調査する

② 教育支援プログラムの構成要素の構築、検討

2008 年度に明らかになった教育支援プログラムの構成要素に対し、2009 年度受講生 20 名に評価を得る。その評価から構成要素の妥当性を検討する。

(2) 倫理的配慮

対象者には、研究の目的を説明し、文書にて研究協力の依頼を行った。協力については自由意志であること、分析は匿名で個人が特定されないこと、発表方法、データ管理、処理について約束し、同意書をもって承諾を得た。なお、本研究は、埼玉県立大学倫理委員会（受付番号 19029）の承認を得て実施した。

4. 研究成果

(1) ポートフォリオ導入の効果

2005 年度および 2006 年度の受講生を対象に研修修了時に行ったインタビュー内容から、ポートフォリオを活用したことについての内容を分析した。その結果、内容の多い順から、「自己の看護観を振り返り、看護の専門性を追求する」「自己をみつめ、自己の内面を仲間に出す」「自己の思考・自己の課題の明確化」「自己の思考過程の明確化」「自己受容」「エンパワーメント」「対人関係の視点の変化」「主体的な学習体験」「新しい

ことへの挑戦」「学習の方向性の確認」「成長の実感」「負担感」など12のカテゴリーが抽出された。

表1 自己理解に関する効果

コード	サブカテゴリー	カテゴリー
過去の自己の捉え直し 自己の生き方の振り返り 内面をみつめていなかった自分 強みと弱みをもつ自分 自己表現の苦手な自分 他者の意見を聴かなかった自分 他者を認めていなかった自分 ちっぽけな自分 悲嘆過程を踏めていない自分 認められたい自分 目標達成できない自分 弱さをみつめていなかった自分	自己内省 <21>	自己をみつめ、自己の内面を仲間に表示
自己の弱みを仲間に出す 自分をだせること わからないことの開示	自己開示 <3>	
ありのままの自分を受容 自己の弱みと強みの受容 自分の人生の肯定 自己の良さを肯定 自己の能力の肯定	自己受容 <16>	自己の承認
自己の課題に頑張る意欲 元気な気持ち 心の栄養をもらった感じ 孤独でない自分という気持ち 自己を肯定される喜び 仲間と頑張れる気持ち 仲間になれた安心感 プラス思考できる気持ち 前向きな気持ち	気持ちの安定・充実 <16>	エンパワメント

表2 他者との関係に関する効果

コード	サブカテゴリー	カテゴリー
求めたい知識を共有できること わからないことを言い合えること	共有 <6>	仲間との共有・分かち合いの関係構築
仲間と悩みを共有し合えること 同じテーマ同士の励ましあい 心から信頼できる友人関係 仲間の成長のうれしさ 支え合えるメンバーの見出し 励ましあい	高めあう関係 <12>	
相手を認めること 他者を理解しようとする	他者受容	対人関係の変化
相手に求めすぎないこと 医師に自己の考えを伝えること スタッフを肯定的に見ること 他者のアドバイスの前向きな受け止め 患者の良さをみようとする 他者を肯定する大切さ	対人姿勢の変化 <11>	

以上のカテゴライズされた内容を更にとめると、自己の理解に関する効果(表1)、対人関係に関する効果(表2)、専門性の向上に関する効果(表3)、自己教育力の効果(表4)、ポートフォリオの負担(表5)に分類された。

表3 専門性の向上に関する効果

コード	サブカテゴリー	カテゴリー
看護観がまとまっていない自分 看護の独自性を理解できていない自分 看護を考えてこなかった自分 患者に価値観を押し付けていた自分 緩和理念を理解できていない自分 自己満足の看護をしていた自分 死生観があいまいな自分	看護に対する自己内省 <16>	自己の看護観を振り返り看護の専門性を追及
看護の原点の振り返り 看護の専門性の捉え直し 看護の独自性 看護の独自性を考えること 患者への看護の意味の追及 自己の看護行為の意味	看護の専門性の追求 <22>	
言語化する必要性の認識 自己肯定の必要性 自己に必要な知識 自己の学習レベル 自己の取り組む目標	自己課題の明確化 <7>	自己の思考・課題の明確化
自己の考えの記述 自己の思考の軌跡 自己の思考を深められること 自分の意見をまとめられること	自己の思考の明確化 <7>	

表4 自己教育力への効果

コード	サブカテゴリー	カテゴリー
意図をもった授業参加 根拠を言語化する努力 自己の学ぶべき課題の明確化 目標に沿った行動目標 目標にそった資料集め	学習の方向性の明確化 <9>	学習の方向性の明確化

表5 ポートフォリオの負担

コード	サブカテゴリー	カテゴリー
書くことの大変さ 自己開示のつらさ 他者にコメントできないつらさ 目標達成の大変さ 目標にこだわる大変さ	取り組みへの負担 <5>	負担感

以上の結果より、緩和ケア認定看護師教育において、ポートフォリオを活用することは自身を内省し、強みや弱みに気づき自身を知ることができる、自己表現力が豊かになるなど、対人関係能力をあげることに繋がると示唆された。また、それらの効果は、緩和ケアに必要な対象のありのままの心に向き合う姿勢や聴く能力を養うことに役立つと考えられる。そして、さらに専門職者に必要な

自己教育力、自己を肯定し主体的に学ぶエンパワーメントの効果も期待される。

(2) ポートフォリオガイドの作成

(1)の結果を踏まえ、認定看護師教育課程におけるポートフォリオ活用の意義は、①人間的な個性ある成長を評価できる。②自己をみつめることができる。③自己表現が豊かになる。④お互いのポートフォリオをみることで考えや評価の視点が広がる。の4点と考えた。

さらに毎年行った受講生の修了時インタビューでの評価から内容と活用方法の検討を繰り返した。最終的には、受講生自身の自己理解が促せる内容とした。(表6)

表6 ポートフォリオガイドの内容

- | |
|---------------------|
| 1. はじめに(意義と目標の立て方) |
| 2. ポートフォリオ展開の流れ |
| 3. ポートフォリオにいれるもの |
| 4. ポートフォリオ評価 |
| 5. シート一覧 |
| ① ビジョンシート |
| ② 目標シート |
| ③ ビジョン&ゴールを導くためのシート |
| ④ 計画シート |
| ⑤ 1週間振り返りシート |
| ⑥ 中間振り返りシート |
| ⑦ 実習シート |
| ⑧ 成長エントリーシート |

次に活用方法について述べる。毎週学習した内容についての振り返りを用紙に記載し、修了までに担当教員と4回の面接を実施する。また、研修修了時には、自分の成長について自己評価を行う。

具体的には次のように活用する。

- ①入学時の自己紹介：各受講生は、今まで歩んできた自分の経歴や技能・能力などをファイルにいれ、仲間に披露し、相互理解を深める。
- ②面接：各自が自分を見つめ、強みや弱み、緩和ケア認定看護師としてどのような自分を夢見ているのかを考えさせ、そのような自分に到達するには何が課題かをシートに書き込む。そのシートをもとに教員と面接する。初回の面接の目的は自己の課題の明確化である。
- ③自己の目標と計画立案：各自で6ヶ月後の自分についてのビジョンを書き、具体的な目標を立て、その目標を達成するための学習計画を立案する。その後は内容をファイリングしていく。
- ④ピア評価：ポートフォリオはいつでも誰でもみられる場所に置き、受講生同士や教員が「ありがとうカード(ピンク)」「応援カード(青)」を書きあう。「ありがとうカード」は

内容について役立ったり、励まされたり、勇気づけられたときなどに送るカードである。一方、「応援カード」はアドバイスを送るカードとした。

⑤成長の発表：自己の成長を各自でまとめ、実習が始まる前に、その成果をプレゼンテーションする。受講生は自己の成長を客観視すると同時にクラスメイトからの承認を得る機会となる。(成長のまとめ、および実習の目標を立案するために、教員との面接を実施する)

⑥成長のまとめ：研修修了時に、再度自己の成長を客観視し、「成長エントリー：自己の成長ベスト3と今後の課題」についてまとめ、教員と面接を行う。

(3) ポートフォリオに関する評価

①2008年度の受講生20名からの評価：3ヶ月の座学終了時に実施するポートフォリオ発表会では、自己の成長について、緩和ケアの学習内容を挙げた人は2名であり、その他18名は内面的な成長を発表していた。具体的には「死と向き合えない私に気づく」「目標が見えない自分を認識する」「自信のない私を受け入れる」などであった。

約半年の研修が修了する時点でまとめた「成長エントリー」の記録では、一番の成長に自己の内面的成長に関する内容を挙げた人が7割で、その理由は、ポートフォリオ発表会と面接および実習が27.5%、講義・演習が23.5%、仲間が21.5%であった。

従って、今回のポートフォリオを活用した教育支援プログラムは、緩和ケア認定看護師に特に期待される対象の心理的な苦痛、スピリチュアルペインを捉える能力に関連した資質を育成するのに効果があるのではないかと考えられた。

②2009年度受講生20名からの評価：

研修修了時に独自に作成した無記名自記式質問紙調査を受講生に実施した。質問紙の構成は、属性とプログラムを体験して修得した能力および自己の成長に影響したプログラムについての評価(5段階評価)とした。

回答者数は20名、有効回答は100%であった。平均年齢は34.8±8.6歳、平均看護師経験年数は11.8±4.4年であった。

プログラムを体験して修得した力は、8項目中、「内省する力(平均4.65±0.49点)」「自己評価力(4.1±0.99点)」「表現力(4.0±0.65点)」の順に得点が高く、「リーダーシップ能力(3.1±0.79点)」「交渉力(2.8±1.19点)」の得点が低かった。また、自己の成長に影響したプログラムの内容は、6項目中、「メッセージカードの活用(4.65±0.67点)」「教員との面接(4.4±0.68点)」「中間発表会(4.35±0.88点)」の順に得点が高く、「目標設定・計画立案(4.0±0.97点)」が最も低かった。

患者・家族のつらさに寄り添う緩和ケア認定看護師には、自己を肯定的に受け入れる能力が求められている。ポートフォリオ教育支援プログラムは体験した受講生の評価より、受講生の自己理解を促す効果があると示唆された。

(4)得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

我が国においては、近年、専門看護師や認定看護師を目指す看護師が増えてきており、臨床で働く看護師のキャリアアップ支援は重要な課題である。そのため、臨床における卒後教育においても、「看護師の資質向上」「自己研鑽」「目標経営」「人材育成」等のために、ポートフォリオを導入し始めている。しかし、認定看護師教育においてポートフォリオによる教育支援プログラムを導入しているという報告はない。

今回、ポートフォリオの活用が緩和ケア認定看護師に必要な対人関係能力、自己学習能力の向上に役立つことが明らかになった。特定の専門的知識・技術の習得をするだけの学習構造ではなく、学習者自身が主体的に教育に参加でき、個人の課題を自らの目標に変換しながら自己教育力を高められ、なおかつ専門的知識・技術を発揮するための基礎的な力を養うポートフォリオの有効性が示唆されたことは意義あることである。今後、看護専門教育において、さらなる活用が期待できる。

(5)今後の展望

がん対策基本法が策定され、がん医療の質を高めるためには、医療の標準化・均てん化が求められている。つまり、地域格差や施設間格差をなくすために、緩和ケア認定看護師をはじめとするがん関係の専門看護師・認定看護師の活動が期待されている²⁾。

また、2010年度の診療報酬改訂により、緩和ケアの一定の研修を受けた看護師が行うケアが算定対象となるなど、施設側にとってのメリットも大きくなっている。従って、緩和ケア認定看護師を養成する教育機関への期待も大きいと考えられる。

さらに、緩和ケア認定看護師には対象となる人が生活者として望む場所で最期まで安心して生きることを支える身近なサポーターとして、自律した看護活動を行うことが重要とされている³⁾。

認定看護師教育機関においては、このような社会情勢やニーズおよび組織の期待に答えられる人材を育成できるよう、教育内容の充実を図ることが望まれる。

<引用文献>

1) 鈴木敏恵, 成長し続ける看護師のために, 看護展望, 30(11), 医学書院, 2005, 18-21

2) 濱口恵子, 専門看護師・認定看護師, 緩和医療学, 10(4), 先端医学社, 2008, 76
3) 阿部まゆみ, 緩和ケアにおける看護の役割, インターナショナルナーシングレビュー, 30(4), 日本看護協会出版会, 2007, 41

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計1件)

1) 筑後幸恵・松村ちづか・星野純子, 緩和ケア認定看護師教育におけるポートフォリオの効果, 埼玉県立大学紀要, 査読有, 第11巻, 2009, 35-39

[学会発表] (計3件)

1) 筑後幸恵・松村ちづか・星野純子, 緩和ケア認定看護師教育におけるポートフォリオの効果, 日本看護学教育学会第18回学術集会, つくば市, 2008.8.2

2) 筑後幸恵・星野純子, 緩和ケア認定看護師教育におけるポートフォリオ学習支援プログラムの実践・評価, 日本看護学教育学会第19回学術集会, 北見市, 2009.9.20

3) 星野純子, ポートフォリオ学習支援プログラムを実践した緩和ケア認定看護師を目指す看護師の内面的成長プロセス, 第24回日本がん看護学会学術集会, 静岡市, 2010.2.13

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

ホームページ等

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

星野純子 (HOSHINO JUNKO)

埼玉県立大学・保健医療福祉学部

看護学科・講師

研究者番号: 00320672

(2) 研究分担者

筑後幸恵 (CHIKUGO YUKIE)

埼玉県立大学・保健医療福祉学部

看護学科・准教授

研究者番号: 60310512

松村ちづか (MATSUMURA CHIZUKA)

埼玉県立大学・保健医療福祉学部

看護学科・准教授

研究者番号: 70331395

木村伸子 (KIMURA NOBUKO)
埼玉県立大学・保健医療福祉学部
看護学科・助教
研究者番号：20310253

(3) 連携研究者
なし